神奈川県建築士会横浜支部

よこはま支部だより

45
発行日
平成20年8月7日

（社） 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当:大平
〒231-0011
横浜市中区太田町2－22
（神奈川県建設会館新館5F）
Tel （045） 201-1284
Fax （045） 201-0784

神奈川県建築士会横浜支部　平成 20 年度第 15 回通常総会報告

支部長　南　利幸

平成２０年度通常総会の報告をいたします。

- 日　時　：　平成２０年６月２１日（土）
  １４：００　開催　（ １３：３０　より受付開始 ）
- 場　所　：　横浜情報文化センター
  （ 横浜市中区日本大通１１番地、TEL045-664-3737 ）
- 総　会　：　１４：００ ～ １５：００ （ ７階大会議室にて ）

＜ 議　　事 ＞

○ 平成１９年度活動報告
○ 平成１９年度収支決算報告・監査報告
○ 平成２０年度活動計画案
○ 平成２０年度収支予算案
○ 役員改選
　副支部長　長井・井上両氏が辞退され、
渡邊一郎・山成芳直両氏が推薦される
＜全ての議事が承認されました＞

□ 来賓（敬称略）

まちづくり調整局長	相原　正昭
横浜建築事務所協会会長	名取　邦孝
神奈川県建築士会会長	藤田　武

- 講演会　：　横浜国立大学教授　山本　理顕　　１５：１５～１６：４５
  テーマ　「建築士を超えて」　　出席者　１５２名
  司　会　下村　旭

- 懇親会　：　「ランチャンアベニュー」　　１７：００～１９：００
  出席者　　５３名
  司　会　渡邊一郎

タイトル	頁
平成２０年度通常総会報告	1
講演会	2
懇親会	3
○総務委員会	4
横須賀美術館見学会	5
○技術・情報サロン	6
庭を通じて	7
○技術・情報委員会	8
サッシ・ガラス製造工程見学会	9
○第１３回ハイキング紀行	１０
富士山	１１
○絵画同好会	１２
第 11 回デッサン会	１３
○テニス同好会たより	１４ １５
○おしらせ 夏の親睦会 住宅相談キャラバン隊登録者募集	１６

● 講演会　テーマ　「建築士を超えて」　　横浜国立大学教授　山本　理顕

6月21日第15回横浜支部通常総会が、横浜情報文化センターにて開催されました。

南支部長による議長の元に各議案が審議され全議案が出席者全員一致の賛同となり、無事終了しました。

その後、情文ホールにて山本理顕氏による表題「建築士をこえて」～内なる姉歯事件～についての記念講演が行われました。山本理顕氏は話題の人であり、多くの方が出席されました。

始まりは、副題として

１．資格としての建築士

①建築士＝確認申請代願業：確認申請業務のを請け負う

②　建築士＝施主（依頼主）の代理業：依頼主に代わって、依頼主の思想に従って、もっぱら建築の技術的な側面を請け負う

③　建築士＝依頼主の希望に従って、できるだけ快適な環境をつくる

２．施主（依頼主）が常にその建築のユーザーとは限らない

①　マンションのディベロッパーとその最終ユーザー(ディベロッパーの利潤のみを考えるのか)

②　公共建築の発注者とその利用者（行政の考え方に従うのか、管理者の考え方に従うのか、その建築の真のユーザーは誰なのか)

↓

設計者の思想が問われる

３．建築は固有の地域社会の中につくられる

①　発注者のエゴイズムと地域社会

②　設計者の責任

③　地域社会のシンボル

講演の主題「建築士をこえて」～内なる姉歯事件～とのつながりの講演をうかがって理解した物を端的に述べさせて頂くと、姉歯事件では、原因の一つとして構造コストを安くしたいと思うディベロッパーの気持ちに準じた結果である。故に建築士の資格としてのみの仕事に甘んじていると、法を犯さないまでも、同様の間違いを犯す危険性

がある。設計者は地域との融合、地域社会のシンボルとして建築を考えユーザーと徹底して議論すべきである。物言わぬ設計者はマコトチャンハウスになりかねない。と以上となりますが思い違いや不適切な表現がありましたらお許し下さい。

講演は引続き作品の紹介（福生市役所、横須賀美術館、小田原多目的ホール等）となり、講演者の設計への思い、プロセスがわかり感銘を受けました。

最後の質疑応答の一つに事務所の名前が「山本理顕設計工場」で工場となっている由来への質問がありました。答えは模型づくりを中心に設計を行っており、さながら工場の様だからということでした。講師の地域の地形、街並、環境から設計を進めて行く過程で模型の製作を大切にされている事が理解できました。

広報委員会　丸山　幸一

● 懇親会 ： 「ランチャンアベニュー」にて

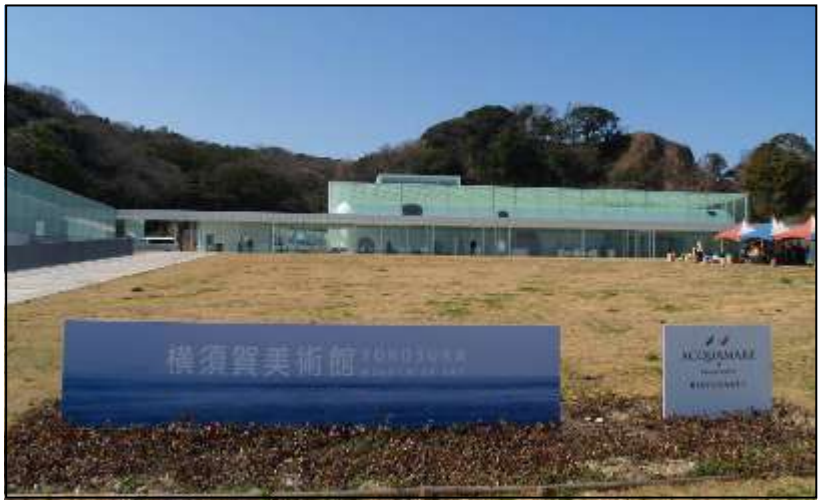
山本理顕先生と講演の続きを

藤田会長・南支部長を囲んで

『美術館建築シリーズ　～実務者を招いて～』

平成 20 年 3 月 22 日　支部見学会

横浜支部では、美術館建築シリーズとして、昨年の「国立新美術館」に引き続き「横須賀美術館」の見学会を開催しました。



横須賀美術館は、横須賀市政 100 周年記念施設として、横須賀型資質評価方式（ＱＢＳ）により選定された山本理顕設計工場の設計・監理により、平成１９年 4 月に開館したものです。本美術館は、平成 19 年度第 52 回神奈川建築コンクール一般建築物部門で最優秀作品に選定されるなど高い評価が得られています。そこで、本美術館の設計チーフの安原幹(やすはらもとき)氏(現 SALHAUS 共同主宰）を講師としてお招きし、貴重なお話もお聞きすることができました。

《見学会光景》

前日までの風雨が一転し、桜が咲かんばかりの雲ひとつない好天に恵まれ、集まった参加者は１８人。3 方を県立観音崎公園の豊かな緑に囲まれ、前面は小型漁船から大型貨物船まで、1 日あたり 700 隻もの船が往来する世界有数の海上交通路である浦賀水道を望む抜群のロケーションが迎えてくれました。

参加者は、美術館内の会議室で、安原氏からランドスケープ及び塩害対策としてボリュームの約半分を地下に埋め、経年劣化の少ないガラスを多用したなどの建物概要やプランニングについての説明を受けました。その後、安原氏の案内で、立ち入り厳禁の収蔵庫に入り、貴重な美術品の収蔵状況を目にすることができました。続いて、ガラスの外皮と鉄板の内被のダブルスキンで構成されている展示室の構造・設備・施工等について解説を受けました。

平面プランは、収蔵庫を中央に配置し、その周りを常設展示ギャラリーが回廊状に計画されています。１２メートルの天井高さの展示ギャラリーは、壁と天井が 3.2 ミリの鉄板で一体化され、境目を曲面にすることにより、スケール感を消失させています。

また、ランダムにあけられた丸窓は真っ白な壁に空や海が切り取られているように見え、美術品とは別にアート感覚を楽しむことができます。

建物の外（屋上広場と背後の公園が同一レベル）に出てみれば、美術館をバックに CM（？）撮影がされていたほど、前面の海とガラスと鉄の空間そして背後の緑が美しくデザインされていました。

約 2 時間の見学のあと、美術館内にあるレストラン「アクアマーレ」での昼食を取り、散会し自由見学となりました。当日は、美術館の前庭が、横須賀市教育委員会主催のウォークラリーのゴールとなっており、海軍カレーや地元産のわかめなど模擬店などで大変にぎわっており市民活動に美術館が違和感なく溶け込んでいました。

《見学会後記》

横須賀美術館は、もちろん一般公開されていますので、是非とも一度訪問されることをお勧めしますが、横浜支部主催の見学会ならではの貴重な体験ができました。

【その１】　一般には絶対入れない美術品収蔵庫に学芸員とともに立ち入ることができ、その管理の厳重さやスケール感を肌で感じることができました。

【その２】　美術館内は撮影禁止ですが、特別許可により参加者が写真撮影することができました。

【その３】　見学会後、昼食時にワイン等を飲みながら、作品の講評に盛り上がりました。

庭を通じて

技術・情報サロン［2007 年 12 月 14 日（金）開催］

講師

枡野俊明 先生（建功寺 住職／日本造園設計 代表／多摩美術大学 教授）

ここ数年、横浜支部の年末サロンは音楽関連でしたが、今回は趣向を変えて「禅」。京都や海外で活躍中の枡野先生は、テレビでもおなじみです。「事務所は横浜にあるのですが、なぜか地元の作品が少なくて‥‥」と、ご本人の弁。今回はその中のひとつ、三溪園の鶴翔閣で講演会が行われました。いくつかの言葉から、その一端をご紹介しましょう。

完全を超えた不完全の美

たとえば器。西洋では完全な形が尊ばれます。円なら正円、左右なら対称、これ以上狂いがないというレベルの到達に、作者は全力を注ぐ。それが西洋の「形としての文化」。それに対して日本の作者は、手間や時間、気持ちや精神を、作品に注ぎ込む。命を凝縮して生ける床の間の一輪、充分な時をかけ墨を磨りながら作品の想を練り、その後一気に書き上げる書や墨絵など。これが日本の「精神性の文化」。日本固有の美の価値観です。

禅

座禅という言葉が先行してしまい、どうしても仏教の禅宗を連想しがちです。しかし、枡野先生は禅という言葉を「室町時代に確立した日本の文化」という広義な使い方をされていました。華道や茶道のように、本来の自己と出会う「道」という文字が入るのが特徴で、画道という言葉もあるのだとか。また、禅は一人で行うことではないそうです。社会の中の自分、その自分を取り巻いている殻（周りの目、物事の執着心）を出来るだけ薄くすること。それが禅の精神です。

目線

講演会で最も頻繁に使われた単語でした。西洋庭園が、建物や彫像を遠近法の焦点に平面図で計画するのに対し、日本庭園はあくまでも目線で考えるそうです。まず、日本建築の特徴を、大屋根と広い軒下（外部か内部かはっきりしない場所）にあると説明されました。そして、庭園の設計は、縁側や部屋の奥からなど、さまざまな場所からの目線で。どうやら、いくつもの立面図を合成しながら設計を進めていく、私にはそんなイメージで伝わりました。

偽

昨年の字。人（にんべん）の為（ため）と書いて、なぜ偽（にせ）なのか？　枡野先生は鳥のさえずりを例にされました。森の小鳥は人間の機嫌をとろうと鳴いているのでなく必要だから鳴いている。ゆえに鳥のさえずりは美しく聞こえるそうです。自分に必要なことに従事する姿、意識を超えた無意識、それこそが「真」に美しく、他人の目や評判を気にして行うことは「偽」、という解説でした。

荷重との戦い

写真は麹町会館。この庭は隣のビルとの境界部で、奥行きは５ｍにも満たないそうです。ビルの隙間からわずかに入ってくる日差しを、石の頭部の照り返し（光）で表現。その後方で、石積みが斜めになった四角い塀は、実は地下からの排気塔です。屋上庭園では、必ず問題になるのが石の重さ。作品の中には、下階の梁に合わせて石を直線配置したものもありました。荷重オーバーのときは、石の内部をくり抜いて軽量化を図るそうです。材料をＦＲＰにして石のように見せることは？という質問には、あくまでも本物の石を使い、質感を大事にしたい、というお答えでした。

技術・情報委員会　田川尚吾（加筆協力：高橋秀行）

講演中

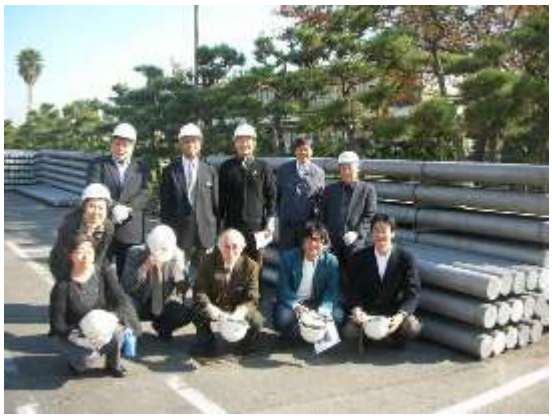
懇親会

サッシ・ガラス製造工程見学会

技術・情報委員会（ 2007 年 11 月 14 日 ）

東京湾アクアラインをはさんで反対側。千葉県にある不二サッシと日本板硝子の工場に行ってきました。朝８時に天理ビルを出発し、午前中はサッシ工場へ。先方は、建築士集団を前に、大勢の専門スタッフを配備。見学前のガイダンスから多数の質疑で白熱しましたが、実に丁寧な答えが返ってきました。

右の写真はアルミ塊。工場の人は、インゴット（ingod）と呼んでいました。カナダやオーストラリアから輸入され、限りなく純度 100%に近い代物。国産のアルミはありません。板チョコを連想させる形で、ingod（神が宿る？）という言葉。もしかしたら板チョコにはそんな意味も込められているのか、と思いながら持ってみると意外と軽く、驚きました。



インゴットに数種の金属を加えて溶解したあとは、長さ６ｍの丸棒に。

遠くから見ると、電信柱のように見えるこの材料。ビレットと呼ばれ、敷地内通路のわきに無造作に積まれていますが、これがアルミサッシの材料です。

見学は、Ａ班とＢ班、二組に別れて説明を受けました。広大な敷地に青い空、海からの風も心地良く、ビレットの前で写真を撮りたいとは、誰もが思っていたようです。

ビレットは、１ｍくらいの長さに切断され、600 度に熱せられると、固体ではあるけれどもかなり柔らかい状態に。バズーカ砲のようなピストンに落とされ、いよいよ押出しが始まります。（左の写真）

右の写真は中古の鋳型。「ロ」の字のような中空断面は、どんな鋳型を使うのか？という質問には、２つのＬ型を組み合わせるという回答。鋳型の出口でアルミ同士が自然にくっつくそうです。

電解発色や組み立ての工程をじっくりと見学した後は、再び会議室で質疑応答。こちらもあちらも目下の悩みは６月の基準法改正。メーカーは、カーテンウォールの個別認定問題に、ジレンマを感じているそうです。昼食前には、防犯と断熱の専門家から講義。ガラスののみ込み代 10mm など、防犯の対策指針は、国交省でなく、警察と協力して作成しているという話が印象的でした。

午後はガラス工場。高さ 100mの巨大な煙突（高炉）を手前に、徒歩で 10 分ほどかかる長い建物。それが基本パターンで、合計３棟ありました。ガラス同様、見学者も手前で一気に加熱され、奥に進むと徐々にクールダウンです。撮影が制限された中、右は唯一の工場写真。棟の長さが、お分かりになるでしょうか？

ガラスの主原料はケイ砂。これは国産でまかなえるとのことでした。意外だったのは、製作方法が原始的、というか、昔から変わっていないこと。フロート板ガラスは、スズの槽の表面に真っ赤な液体を流して作られますが、ガラスの厚みは流れ作業のスピードで調整しているそうです。例えば、３mm 厚の場合は速く、22mm 厚の場合は遅く、といった具合です。

例えば、ロールのスピードが 19mm 用から 22mm 用に変わる最中には、途中で 20mm 厚のガラスもできてしまいます。しかし、そうした規格外製品は最終出口のところで、人力によって叩き割られ、地下を逆走し、原料（カレット）としてスタート地点へ。そこで再び溶かされ、生産ラインに流されます。正月も休まず、２４時間フル稼働。重油を使って、ガラスを溶かしたり固めたり、それを繰り返しているわけです。エコの視点だと、なんだかエネルギーの無駄づかいのような気もしました。

ペアガラスや中空ガラス、最近のプリントガラスなどは、今でも手作りに近い形で製作されていました。さすがにガラスの運搬は吸盤付きの機械でしたが、マスキングやシート貼りの作業は、クリーンルームで防塵服姿の作業員によって行われ、工場内はとても清潔です。

ここでも、見学後の質疑応答は活発。予定を１時間も超過してしまいました。サッシ同様、ガラスメーカーも、６月の基準法の改正によって、防火設備に関する混乱が続いているそうです。防火として網入りガラスを使っているのは日本ぐらいだそうで、ガラス産業は、まだまだヨーロッパのほうが進んでいるという話。ルイ 14 世がベルサイユ宮殿で実現した鏡の間。そこから興ったフランスのサンゴバン社。英国ではピルキントン社が有名です。数百年という歴史の差は、技術の差でもあるそうですが、防火や地震対策など、日本の方が進んでいる面も、少しずつ出てきているという話でした。

そのほか、2.4 ㎡で単価が変わる理由や、網入りガラスの 6.8 という数字の謎、四周の防錆対策はどのように徹底させるか、材料の輸入先、など、多くの話題で盛り上がりました。サッシ同様、今回は、メーカー側の的確な回答に、多くの参加者が充実感を覚えたことと思います。

アルミやガラスは、一見冷たく感じる材料でした。しかし今回、その製造過程を見学したことで、とても身近な材料に感じるようになって横浜に戻ったこと、それが一番の収穫だったかも知れません。

技術・情報委員会　田川尚吾（加筆協力：高橋秀行）

第１３回 ハ イ キ ン グ 紀 行

富 士 山

大西　正行

今回の紀行の先は富士山です。

やっと、富士山にたどり着いたというところです。小生ハイキングに続く山行としては丹沢地域において、大山へは毎年夏に１０回を越えてはいますが、大山以外ではまだ１０回にもなっていません。そこへもっていきなり 3000mをこえる山へ一泊して登る事は、すでに中高年の域に入っているものとしては、結構な気合いを入れてのことです。

８月下旬に頂上まで行ったのですが、生憎カメラの故障で、掲載の写真は９月下旬に再度、宝永山に登った時のものを利用しています。

御殿場駅よりバスに 50 分ほど乗り、須走口新５合目から登ります。富士山は他に、富士宮口・河口湖口・御殿場口が登山道としてあります。須走口は標高 2000mです。山荘が２軒並んでおり、その前から出発します。そしてすぐに古御岳神社を見て森の中をしばらく進みます。

すると２０分もしないうちに視界が開けてきます。歩き始めてから１時間半で６合目長田山荘（2420m）に着きます。ここからはまた潅木の中を歩きますが、左手には砂走りが見えます。このあたり休憩ポイントとなるでしょう。また、１時間と少しで本６合目（2620m）瀬戸館になり、さらに１時間ほどで７合目（2920m）太陽館に着きます。ここから山頂が見られるようになります。御殿場駅で時間を浪費してしまい、12 時の歩き始めであったが、ゆとりをもったおかげで焦る事もなく、ほぼ３時間強で本日の宿に到着しました。

山小屋にて夕食をとり仮眠状態の浅い眠りではあるが、疲れをとります。そして夜中 12 時過ぎにはお弁当を貰い、頂上へと出発しました。夜空は星でいっぱいです。こんな景色はもう何年も見ていなかったようです。下界の方を見ると、雲の切れ目に明かりが町ごとに目に付きます。一部には雷雲でしょうか、時々光るものが見えます。まずは、30 分で本７合目見晴館（3140m）、そしてまた 30 分で８合目江戸屋（3270m）となります。つぎに２０分ほどで本８合目（3370m）となりますが、ここは河口湖からの登山道と合流点になり、ここから頂上までは大渋滞となります。

そして 30 分（実は渋滞時間を含んでいる）で胸突き江戸屋（3415m）、最後は一時間強で頂上（3720m）となります。道は小石をさらに細かくしたような火山弾のかけらでうまっており、そこに大きめの岩も顔を出しており、つづら折に単調ながら徐々に勾配を上げていき、標高が上がっていくのと比例して空気も薄くなるのが感じ取れ、体力はかなり消耗していきます。頂上では５時ごろに御来光がみられます。

下山は御殿場口方面へ向かい宝永山の脇を通り雄大な景色を独り占めにして　大砂走りを経験するのですが、この砂走りの一帯はなんと広さを感じさせてくれるのであろうか。いったい、砂礫がどれだけ積もってるのだろうか。見渡す限りの斜面は、これでも富士山の一部なのです。あまりに斜面が広く大きくて、遠くに見える山中湖が水平なはずが斜めに見えてしまう錯覚におちいってしまいます。人一人、何もないところへ月の砂漠かどこかに、ぽつんと置かれたような気がしてきます。この場は、この景色そのものを体の一部にしまいこんでおきたいような原風景ではないでしょうか。話だけではなくぜひとも一度は経験して欲しいものです。

下山の所要時間は頂上より新 5 合目大石茶屋（1550m）まで３時間半でした。

《絵画同好会だより》

［第１１回　デッサン会］　　2007.12.22

’2007 の恒例のデッサン会は・・・

モデルさんがとても清楚で、かわいらしい方でした。自前のコスチュームが個性的でした。カラフルな作品になりました。
近頃は 図面もパースも すべてコンピューターで 作成するようになりましたので、年末のデッサン会は手描き作業が、右脳に刺激的でした。

石 田　明 代

（モデルを囲んで・・・もちろん、左から３番目の人です）

同好会 会員の作品

絵画同好会では、会員を募集しています。絵を描きたいと思っている人、
美術鑑賞が好きな人、建築士会事務局まで、ご連絡ください。同好会では、
スケッチ会や、デッサン会、各地の美術館での鑑賞会を、行っています。
たくさんの人の参加を、お待ちしています。

テニス同好会だより

定例会報告

・平成１９年６月９日（土）
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート参加１０名
テニス大会後初の練習です。気を引き締めて・・
来年に向かって熱の入った練習でした。

・平成１９年８月２５日(土)
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート参加９名

暑気払い：新杉田の焼き鳥と日本酒が美味しい「まいど」

・平成１９年９月２２日(土)
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート参加９名

コート前にて

・平成２０年１月１２日(土)
雨のため新年会のみ　　参加９名
新年の活動方針についてミーティングをしました。

毎度行く「まいど」・・・？

・平成２０年２月９日(土)
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート　　参加５名
２面取れているのに５名は寂しい・・。冬だからしょうがないですかね？

２次会：遊山亭

コートサイドにて

・平成２０年３月２２日(土)
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート　参加６名
そろそろ皆さん参加してもいいのにー（幹事の独り言）

・平成２０年４月１２日(土)
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡコート　　参加１２名
又少ないと思って１コートにしたのに・・・春だからねー！

テニス大会報告

5月24日(土)磯子区岡村コートにてテニス大会が行われました。
参加チームはA･Bの2チーム。昨年の惨敗経験から、今年こそは一勝を･･とやる気満々。天候が気になる中、Bチームは午前、Aチームは午後3時～と遅い時間で開始。無事終了しましたが結果は･･年々レベルが上がっているようで、両チーム共初戦は負けてしまい、Aチームのコンソレは雨のため 6 月 8 日に持ち越しになりました。
Aチーム、6 月 8 日のコンソレも手ごたえを感じながらも勝ち進めずでした。･･残念！

Ａチーム

Ｂチーム

合　宿　報　告

冬の合宿＆忘年会

平成19年12月1日(土)2日(日)
場所:逗子マリーナ　宿泊参加者１８名、テニスのみ参加３名、計２１名
毎年参加者が増え、今年は鍋パーティーの準備が大変でしたが、皆で協力し合い楽しいひと時でした。

１日（土）コートにて

忘年会（鍋パーティー）

肉の切り方もコーチ？
名古屋コーチンだったりして・・？

お鍋完成！

海老焼きに夢中

２日（日）コートにて

試合の注意事項について説明

トーナメント優勝チームは大はしゃぎ！
この組み合わせにブーイングが・・・

合宿初参加者の感想　　横浜支部　　河内　崇

・晴天の逗子マリーナ。
　最高の天気でした。12 月なのに全く寒くなく、動いていると半袖でもちょうど良いくらい。去る 12 月 1 日と 2 日、私が去年の 6 月よりお世話になっているテニス同好会の、冬の合宿に初めて参加させていただきました。夏以降、毎月狙ったように雨に降られ、中止となった定例会が続きましたが、この日の為にお日様を蓄えていたような、そんな素晴らしい 2 日間でした。日中は青空のもとテニスを楽しみ、そして夜は鍋パーティーで忘年会と、先輩方と非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。

いつもお世話になっている斎藤夫妻のおかげで今年も楽しい合宿と忘年会が出来ました。
斎藤さんどうもありがとうございました。又よろしくお願いいたします。

山中湖の合宿

5月10日(土)･11日(日)　場所:山中湖「三盛荘」 参加者17名
　恒例になりました山中湖の合宿。２日間とも雨の中でのテニスになりましたが、皆さんのやる気で何とか、土曜日は２時間位、日曜日は１０時からＰＭ３時までプレーをする事が出来ました。
テニス大会に向けての作戦会議をして充実した合宿を無事終えることが出来ました。

夕食前のミーティング

夕食タイム

同好会会員募集中！

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎！お気軽に連絡下さい。
ご連絡の際はお名前、連絡先の記入お願いします。詳しくはホームページをご覧下さい
　　連絡先：玉野　045-894-8452　FAX893-6614

お知らせ

■ 厚生委員会から夏の親睦会のお知らせ＜**詳細は同封のパンフレットをお読み下さい**＞

日　時　：　平成２０年９月５日（金）１８：３０～２０：３０　集合１８：２０（時間厳守）

場　所　：　横浜赤レンガ倉庫（２号館３階）　ＢＥＥＲ　ＮＥＸＴ（ＴＥＬ　０４５－２２６－１９６１）

会　費　：　支部会員及び建築士会会員　：　３，０００円（当日徴収）

　　賛助会員及び非会員　　：　５，０００円（当日徴収）

申し込み：　８月２１日（木）までに、渡辺組　長島まで（ＦＡＸ　０４５－２０１－２３８０）

先着　５０名様とさせていただきますので、早めの申し込みをお願いいたします

■「住宅相談キャラバン隊登録者募集」のお知らせ

神奈川県建築士会では、先の中越地震・中越沖地震に関東ブロック協議会よりの要請を受け、キャラバン隊を派遣しました。
それに伴いキャラバン隊員の急遽募集の連絡方法を模索してきましたが、横浜支部では建築士会会員の皆様すべてにお知らせをするというのは無理がありますので、横浜支部としましては、「住宅相談キャラバン隊登録者」を募集して、名簿を備えておくということになりました。つきましては、「キャラバン隊登録者」にご応募くださるようお願いします。
　ご応募の方は建築士会事務局までご連絡ください。

■　広報委員会からのお知らせ～ **横浜支部　ブログへの投稿をお待ちしております！！！**

新しくしました横浜支部のホームページのブログへ書き込む時の　ＩＤとパスワード（ＰＷ）です。

ＩＤ：　yokohama-sibu　　ＰＷ：blog4us

●横浜支部賛助会の皆様へ

この４２号支部だよりから、頁の最下段に会社のロゴなどの広告掲載（バナー形式）を無料にて実施させて頂くことにいたしました。今回は急なお願いの為、掲載させて頂いた賛助会の方は少数でした。
次回発行は５月下旬を予定しておりますので、ご準備お願いいたします。
賛助会会長㈱星　星雅巳社長からの新たなご提案をお待ちしております。　　広報委員会

□　バナー作成について

①　バナーは、縦 35mm。横 105mm。解像度を 300pixel でお願いします。
　企業スローガンや、住所や電話番号を記載されても構いません。
　原稿はカラー（支部のホームページに記録）。実際に会員配布されるものは、白黒です。

②　広報委員会（大貫）まで、メールにて送信。メールアドレス　ohnuki@dream.big.or.jp

③　ご不明な点は、広報委員会（大貫）までお問い合わせください。

編集者（あいうえお順）雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫　浩・小俣　隆・田川尚吾・玉野直美・橋本朝子・丸山幸一